

土木学会四国支部「土木紀行」No.41(愛媛県)

～笠置峠古墳(かさぎとうげこふん)～

県内で最近整備された古墳の一つに笠置峠古墳がある。笠置峠古墳は宇和盆地の北西部、西予市と八幡浜市の境の標高412メートルの山頂に作られている。(写真1)3世紀半から4世紀前半頃に築造された西南四国最古の前方後円墳である。前方後円墳は一般に平面形が鍵穴形をしているとされるが、笠置峠古墳は「しゃもじ形」をしている。また前方部が短いことも特徴のひとつである。



写真1 笠置峠古墳と宇和盆地

発掘調査は平成9年から行われ、平成16年から21年にかけて復元・整備が行われ、整備は現在も進められている。全長約45メートル、後円部の直径約28メートル、前方部の長さ約17メートルの大きさがある。墳丘の斜面には地元産の石を用いた葺石が葺かれており、後円部の墳頂部には、東西に軸を持つ長さ4.6メートル、幅0.7～0.9メートルの竪穴式石槨が設けられている。この石槨は南予では初めて発見された例である。残念ながら石槨は盗掘を受けているが、副葬品と思われるヤリや農工具といった鉄製品や、石槨上に置かれたと思われる土器や土製品が出土している。土器や土製品の存在から、墓造りが完了した後に飲食を伴うまつりが行われたと考えられている。



写真2 笠置峠古墳への道

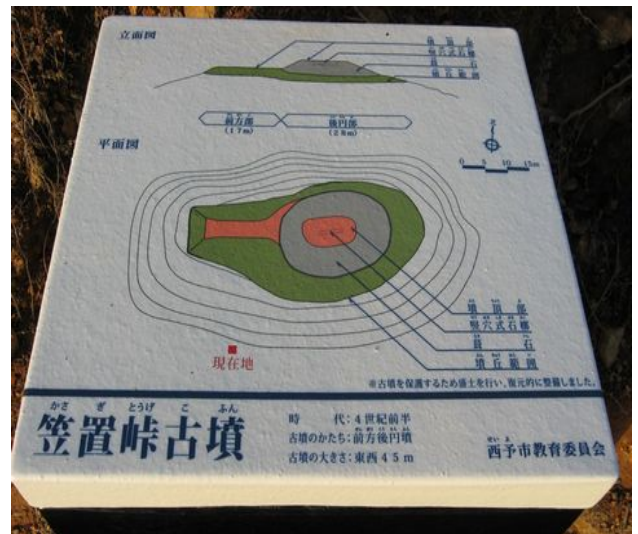


写真3 笠置峠古墳の図

竪穴式石槨の復元模型が見学施設として設置されているほか、墳丘に葺石を葺く体験事業も実施され、地域住民と共同での調査・整備作業が進められている。調査を担当した大学と、整備を進める行政、それらをサポートする地域住民という三位一体の体制で事業が進められており、全国的にも注目される事例である。



写真4 墳丘の様子

ふもとの登り口から笠置街道・林道を歩いて約30分かかるが、道中には手作りの解説も設けられた見所が9カ所あり、里山を散策しながら古墳に行くことができる。

墳丘に立つと、西には佐田岬半島・宇和海・九州を、南には宇和盆地を見渡すことができる。(写真5)古墳を見学しに来たのか、この景色を見に来たのかを忘れさせるほどの眺めである。



写真5 墳丘からの眺め

林道を車であがることもできるが案内マップ片手に里山の自然や文化遺産を楽しみながら登るコースがお勧めである。

参考文献：愛媛新聞社発行 accrete 6月号
西予市ホームページ

<http://www.city.seiyo.ehime.jp/>

愛媛大学考古学研究室ホームページ

<http://www.h.ehime-u.ac.jp/~archaeology/main.htm>

(愛媛大学工学部 環境建設工学科4年 森川貴章)